学校ネットトピックス　H290129版

ＪＲＣ部『手話パフォーマンス』＆『避難訓練』体験

Ｈ２９年１月２９日（日）、一宮市尾西庁舎　大ホールにて、ＪＲＣ部のメンバーが一宮市聴覚障害者災害対策連絡協議会主催の学習会『聞こえない人と一緒に　公演＆避難訓練』と題して、防災ボランティアネットワークの活動紹介や、避難所訓練等に参加してきました。

本校ＪＲＣ部の手話メンバーも手話パフォーマンスを披露し、耳の聞こえない人からも賞賛の拍手をもらいました。

また、避難所訓練として、ＨＵＧ（ハグ）ゲームを３チームに分かれて行い、場面に合わせた対応をどうしたらよいか検討し合いました。

中日新聞朝刊　尾張版　2017.1.30.付　許諾番号　20170201-18977

聴覚障害者 どう誘導？

一宮で避難所訓練　杏和高生の手話コーラスも

聴覚障害者を対象にした災害時の避難所訓練が29日、一宮市東五城の市尾西庁舎であり、当事者や支援者ら約60人が誘導の仕方などを体験した。

（植木創太）

市聴覚障害者協会やの両方が不自由な盲ろう者役の男性を支え、手話サークルなどでつくる「市聴覚障害者災害対策連絡協議会」が、案内するなどした。

避難所で適切な配慮ができるようにと初めて必要な配慮についても議論。「筆談ができるよう、避難所に紙とペンを置いたらどうか」「スマートフォンの音声認識機能で文字化しながら会話すると便利」などとアイデアが次々と出された。

企画した。

障害者の数や状況などの想定をカードで無作為に決め、避難所の運営をする「ＨＵＧゲーム」を実施。目と耳

手話に取り組む杏和高校（稲沢市祖父江町）のＪＲＣ部員も参加。災害時に聴覚障害者の友人を探すというストーリーの寸劇をし、手話を交えたコーラスも披露した。

訓練は今後も定期的に催す予定で、総括責任者の桜井忍さん（ろ）は「手話や障害者支援に取り組んだ経験が掛け、支援の輪を広げていきたい」と話した。

❷災害時を想定し、盲ろう者役の男性（右から２人目）を誘導する参加者　❸参加者の前で手話コーラスを披露する杏和高ＪＲＣ部員たち＝いずれも一宮市東五城の市尾西庁舎で（市聴覚障害者災害対策連絡協議会提供）

手話パフォーマンス
体育館に避難する友だちとの関わりの中で、何が日頃から必要なのかを手話劇で披露

ＨＵＧゲーム
３チームに分かれ、耳の聞こえない人の状況を実際に体験。さまざまな支援策等を話し合い検討しました。

避難所の一人分のスペースを確認！！